

# 2022(令和4)年度 世界史B シラバス

宜野湾高校 地理歴史科

科目	世界史B	単位	4	学年	2・3	2年スポーツ健康コース 3年1・2・3・5・6クラス
使用教科書	帝国書院「新群世界史B」			副教材等	「新群世界史Bノート」	
授業形態	単独・一斉授業					

学習の到達目標	<p>① 自然環境と人類とのかかわりや、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活の中にみられる世界史を調べる活動を通して、世界史への興味関心を高め、世界史を学ぶ意義に気づきます。</p> <p>② 古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地域世界の動向に焦点を当てながら学習し、地球世界の形勢という大きな時間的枠組みの中で理解します。</p> <p>③ 古代から現代にいたる世界の歴史を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解します。</p> <p>④ 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性や現代世界の特質を、広い視野から考察することにより、歴史的思考力を培います。</p> <p>⑤ 主体的な学習活動を通して、現代の世界が抱える諸課題について探究し、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養います</p>
---------	---

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用の技能・表現	d. 知識・理解
<p>○世界の歴史を学ぶ意義に気づき、世界史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組んでいるか。</p> <p>○世界が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身につけているか。</p>	<p>○世界の歴史を、自然環境とのかかわりや地理的条件、日本の歴史と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。</p> <p>○世界の歴史を、時間的なつながりや空間的なつながりに着目して考察しているか。</p> <p>○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることをふまえ、公正に判断しているか。</p> <p>○課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。</p>	<p>○世界の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。</p> <p>○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身につけているか。</p>	<p>○古代から現代にいたる世界の政治、経済、社会、文化、宗教、生活の各領域における歴史的事象を理解し、基本的な知識を身につけているか。</p> <p>○古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解しているか。</p>

## 2、評価方法

- ①定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ②授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- ③ノート、プリント・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

## 3、学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント（教科書準拠内容・白地図等）と資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。

# 令和4年度 日本史B シラバス

沖縄県立宜野湾高等学校  
地理歴史科

教科	科目	単位数	指導学年	必修・選択
地理歴史	日本史B	4単位	2学年(全クラス)	選択必修

## 1. 科目の目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

## 2. 評価の観点および趣旨

関心・意欲・態度	歴史的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての自覚を果たそうとする。
思考・判断	歴史的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
資料活用の技能・表現	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。
知識・理解	我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。

## 3. 評価方法…定期テスト、授業への参加状況及び提出物など

- (1) 定期考査…学期毎に中間考査と期末考査を実施する。ただし、3学期は学年末考査のみ実施する。考査は授業内容を主にして出題する。
- (2) 授業への参加状況…プリントを中心に授業を展開する。ほぼ毎時間そのプリントを提出させ、点検し、参加状況の把握に資する。
- (3) 提出物…適宜課題を課す。

## 4. 使用教科書・教材

- (1) 教科書…実教出版「高校日本史B改訂版」

## 5. 授業の展開と形態

- (1) 地理Bとの2展開クラス。展開は、①2組、②3組、③5組・6組である。

## 6. 学習方法及び履修上の注意

- (1) 最初の授業で、授業開きとしてオリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- (2) 自作のプリントを中心に授業を進め、ほぼ毎時間提出させ、点検する。
- (3) 授業は進度予定表に従って行い、定期考査や課題等を実施して学習内容の定着を図る。
- (4) 視聴覚教材機器、新聞、インターネットなどを適宜利用する。

# 令和4年度 地理B シラバス

沖縄県立宜野湾高等学校 地理歴史科

教科	科目	単位数	指導学年	必履修・選択
地理歴史	地理B	4	2学年	必履修

## 1. 教科の目標

現代社会の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

## 2. 評価方法

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- ③ ノート・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④ 提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

## 3. 使用教科書・教材

教科書：帝国書院 標準高等地図 一地図でよむ現代社会－  
帝国書院 新詳地理B 初訂版  
副読本：帝国書院 図説地理資料 世界の諸地域 NOW 2018  
帝国書院 新詳地理Bノート

## 4. 授業の展開と形態

- 1・2組で地理Bと日本史Bの2展開で行う。
- 3組(文理特進コース)で日本史Bと地理Bの2展開で行う。
- 5・6組で日本史Bと地理Bの2クラス2展開で行う。

## 6. 学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント(教科書準拠内容・白地図等)と資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。

# 2022（令和4）年度 現代社会研究 シラバス

沖縄県立 宜野湾高等学校 地理歴史・公民科

科目名	現代社会研究 (学校設定科目)	単位数	2	学年	3	3組・5組・6組
使用教科書		副教材等	『現代社会資料集 2022』第一学習社 『ステップアップ現代社会』第一学習社			
授業形態	一斉授業					

学習の到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--

## 1. 評価の観点

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用の技能・表現	d. 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

## 2. 評価方法

- 定期テスト：学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- 授業態度：授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- ノート：板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- 提出物：授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

## 3. 学習方法及び履修上の注意

- 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ノートを使用する。
- 授業は進度予定表に従って行い、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- VTRや新聞などの視聴覚教材を適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。

## 2021(令和3)年度

## 沖縄の歴史 シラバス

宜野湾高等学校 地理歴史科

科目	沖縄の歴史	単位	2	学年	3	1, 2, 3, 4, 5, 6組の自由選択科目	
使用教科書	改訂版 書き込み教科書 高等学校 琉球・沖縄の歴史と文化			副教材等	なし		
授業の形態	一斉授業・校外学習			実習費	なし		

学習の到達目標	1 日本史・世界史に、沖縄歴史の視点を取り入れ、歴史の本質を見極める目をやしなう。		
	2 沖縄歴史の考えを取り入れることで、従来の歴史像とは違う歴史評価を加えることができる。		
3 先人の足跡を知ることで、沖縄人としてのアイデンティティの確立を図る。			
<b>評価の観点</b>			
<b>a. 関心・意欲・態度</b>	<b>b. 思考・判断</b>	<b>c. 資料活用 の技能 ・表現</b>	<b>d. 知識・理解</b>
沖縄歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、現代社会に主体的に生きる県民・国民としての自覚をもつ。	沖縄歴史の展開から課題を見だし、我が国と沖縄を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	沖縄歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、その過程や結果を適切に表現する。	沖縄歴史の展開についての基本的な事柄を我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

## 1、学習のねらい

沖縄の将来を担う生徒に、琉球・沖縄の歴史と文化に興味・関心をもたせ、沖縄を取り巻く社会状況・自然環境などの課題を認識させるとともに、現代社会における主体的な自己の生き方と沖縄のあるべき姿について考えさせ、問題解決の方法を追求する。

## 2、評価方法

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
- ③ ノート・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④ 提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

## 3、学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント（教科書準拠内容・白地図等）と資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。
- ⑤ 校外学習を取り入れ、体験的に学ぶ機会をつくる。



# 2022(令和4)年度 地理総合シラバス

宜野湾高校 地理歴史科

教科	科目	単位数	指導学年	必履修・選択
地理歴史	地理総合	2単位	1学年(普通コース)	必履修

使用教科書	帝国書院 「高等学校 新地理総合」	副教材等	「標準高等地図」 「高等学校 新地理総合ノート」
授業形態	単独・一斉授業		

学習の到達目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> <li>・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚などを深める。</li> </ul>
---------	--

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

## 2、評価方法

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 小テスト・・・節・章・単元毎に実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ③ 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的に判断する。
- ④ 発問評価・・・節・章・単元毎の「問い」に関して、文章や選択肢を示し総合的に判断する。
- ⑤ ノート、プリント・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ⑥ 提出物・・・授業の進度に応じた課題について提出させる。

## 3、学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント(教科書準拠内容・白地図等)と資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。





# 2022(令和4)年度 歴史総合シラバス

宜野湾高校 地理歴史科

教科	科目	単位数	指導学年	必履修・選択
地理歴史	歴史総合	2単位	1学年(全クラス)	必履修

使用教科書	第一学習社 「高等学校 歴史総合」	副教材	「ダイアログ 歴史総合」	副教材	「歴史総合ノート」
授業形態	単独・一斉授業				

学習の到達目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</li> <li>・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</li> </ul>
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

## 2、評価方法

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 小テスト・・・節・章・単元毎に実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ③ 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的に判断する。
- ④ 発問評価・・・節・章・単元毎の「問い」に関して、文章や選択肢を示し総合的に判断する。
- ⑤ ノート、プリント・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ⑥ 提出物・・・授業の進度に応じた課題について提出させる。

## 3、学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント(教科書準拠内容・白地図等)と資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会の状況を感じさせながら学ばせる。